旧唐津銀行

旧唐津銀行 展示解説シート　　人物編－1

辰野金吾（たつのきんご）　～唐津は近代日本建築のふるさと～

2015 年 1 月

辰野金吾（1854～1919）
写真：唐津市蔵

辰野金吾は、唐津藩下級武士（食禄三両帯刀戦務膳焚「藩士略譜」）姫松倉右衛門の次男で、14 歳の頃叔父の辰野宗安の養子となります。辰野家も姫松家も郭外（唐津城三の丸の外）にあり、生家は現在の坊主町に位置します。幕末・明治維新を唐津藩は譜代大名として苦難に直面し、幕府老中となった藩主小笠原壱岐守長行は、戊申戦争時、榎本武揚率いる旧幕府艦隊とともに函館を転戦します。

高橋是清（1854～1936）
近代図書館：「大島小太郎とその時代展」より転載）

明治維新を迎え、旧佐幕諸藩は、移封、減封など過酷な処分を受け、唐津藩も新政府の中心である佐賀藩の圧力を受け、藩政改革、西洋化が急進し、洋学校の開校を推し進めることになります。1870（明治 3）年に開設した洋学校「耐恒寮（たいこうりょう）」は、アメリカ渡航経験のあった青年 高橋是清（たかはしこれきよ）を東京より教師に迎えて、辰野は後に唐津の近代発展に貢献した曽禰達蔵や大島小太郎らとともに第 1 期生として学んでいます。

1871（明治 4）年の廃藩置県の詔により、唐津藩は伊万里（現佐賀）県に統合され、これにより耐恒寮も１年足らずで閉校となります。閉校後高橋是清は帰京し、辰野たち教え子に対し、上京への手助けをします。曽禰達蔵（そねたつぞう）とともに上京した辰野は、工学省が開設した「工学寮」（現在の東京大学工学部の前身の一つ）に入学します。東京ー横浜の鉄道の開通、銀座煉瓦街の工事着手など工学技術の発展の中、日本初の本格的工業大学として設立された工学寮は、イギリスから教師を招いて最新技術を学ぶことができ、授業料は無料で生活費も支給されていました。

辰野は、試験を補欠（最下位）の成績でなんとか合格します。入学後、造船学を学びましたが、曽禰達蔵の影響で造家（建築）を選考し、近代建築の基礎を学んでいきます。1877(明治 10)年、工学寮が工部大学校と改称され、英国より建築家ジョサイア・コンドルが教官として赴任し、構造や材料学中心の講義にデザインなどが加えられた建築教育に従事します。1879（明治１２）年、工部大学校を卒業しますが、入学時最下位だった成績も卒業論文では最高位の成績を収めます。

工部大学校を首席で卒業した辰野は、コンドルの母校ロンドン大学建築学科で 4 年間本場の西洋建築を学ぶ特典が与えられ、英国へ留学します。英国では当時、ビクトリア女王治下、最も輝かしい繁栄の時代を迎え、中世ゴシック建築様式を復興した「ビクトリア様式」が主流でした。留学した 4 年間で、ロンドン大学の建築過程および美術過程で学ぶ傍ら、キュービッド建築会社に５ヶ月、ついで建築家ウイリアム・バージェスの事務所の研修生として建築の実務を学び、ロンドン大学で

旧唐津銀行は辰野金吾のふるさと佐賀県唐津市にある辰野が設計監修した歴史的建造物です。

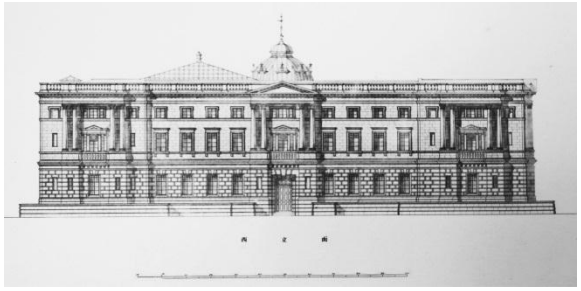
最初に受験した試験の「国民的な様式とは」という問題を探究し、文化や歴史に基づいた時代にあった様式を取り入れるべきだという考え方を踏襲していくこととなります。

フランス、イタリア各地を巡って建築物を見学した後、1883（明治 16）年に帰国した辰野は、1885（明治 18）年コンドルの後任として工部大学校教授に就任します。「日本建築史」を新しくカリキュラムに取り入れた建築教育を行ない、ロンドン大学で最初に受験した試験の「国民的な様式とは」という問題をその年の卒業試験に出題をしています。大学で教鞭を振るう一方で、望んでいた建築の仕事はなく、重要な官庁建築の設計の多くは外国人建築家に依頼されていました。

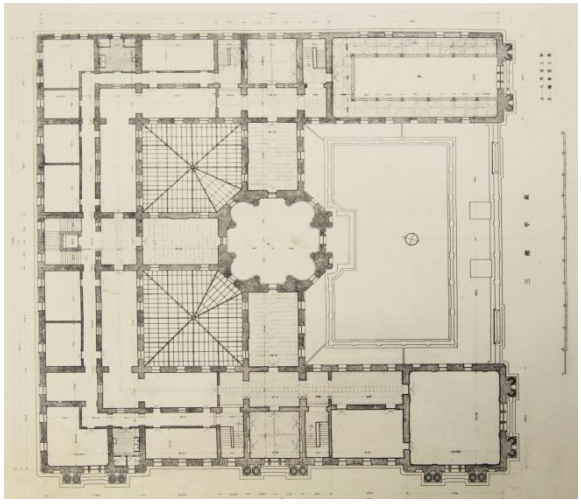
そんな中、第一国立銀行頭取渋沢栄一より依頼を受け、処女作となる銀行集会所（1885 年竣工／現存せず）の設計が持ち込まれ、これを皮切りに保険会社や渋沢栄一邸（1888 年竣工／現存せず）の設計を手掛けています。1886（明治 19）年に開設された帝国大学工科大学造家学科（現東京大学工学部建築科）の教授となり、そこで創設された「造家学会」（後の日本建築学会）の副会長に就任します。1887（明治 20）年、国家プロジェクトである日本銀行本店の設計に取り掛かります。この時、設計を担当することができたのは、耐恒寮での恩師高橋是清と第一国立銀行頭取渋沢栄一の協力があったためと言われています。

日本銀行本店は 1882（明治 15）年「日本銀行条例」の公布を受けて、銀行券の発行など、金融の中枢機関として、永代橋に開業しましたが、手狭で、官庁や商業・金融の中心地からも離れていたため、日本橋への新築移転が進められました。金吾は、日本銀行本店設計に取り掛かるにあたり、２度目の海外へと旅立ちます。まず太平洋を渡り新興国アメリカへ、そして留学をしたイギリスロンドン、ヨーロッパ各地を約２年の歳月をかけ視察していきます。この視察には、同郷の岡田時太郎も同行しています。岡田時太郎は、渋沢栄一邸など辰野金吾によって設計された建築のほとんどに現場管理として携わっていきます。

1890（明治 23）年に着工し、1896（明治 29）年に竣工した日本銀行本店は、辰野作品の特徴である赤煉瓦に白い御影石を巡らせるデザインからは大きくかけ離れた、まるで城塞のような姿が今も保たれています。これは、視察で訪れたベルギー国立銀行を参考にしたと言われています。当時、ヨーロッパ情勢は不安定で、フランス、イギリス、ドイツなど強国に挟まれていた小国ベルギーは、国立銀行が占拠されれば、国家の存立基盤が失われると要塞のような建築がなされていました。



日本銀行本店西立面図（近代図書館所蔵）



日本銀行本店一階平面図（近代図書館所蔵）

これを基に設計された日本銀行本店は、外の空堀を頑丈な石壁で覆い、非常時には水が流れ濠となって防御する作りとなっており、１ 階床は一段高くなっています。また、耐震構造を設計に取り

入れ、建物の重量を軽くするために２階、３階の構造を石造から煉瓦造に換え、その外壁に花崗岩を貼付けて重厚感が出されています。ある建築家は、相撲の仕切りをしているような建物だと評しており、「辰野金吾ではなく堅固だ」と称されたと言われています。着工から完成までの間、設計から施工管理までを受け持ち、この間辰野が設計し完成した建物は一つもなく、正に日本銀行建設に捧げた５年間であったといえます。1898（明治 31）年、帝国大学工科大学学長に就任しますが、1902（明治 35）年、50 歳を目前に突然辞職します。

辰野は、近代化進む東京で代表的な建築物を ３つ設計したかったと言われています。『ひとつは国家の経済の中心となる建物（日本銀行本店）、ひとつは国家の表玄関となる建物（中央停車場）、ひとつは国家の政治を司る建物（国会議事堂）。』留学以来、独立した建築家としての活動を主流とする信念を強く持ち続け、大学教授という使命により実現できなかった建築家としての活動を本格的に始め、翌年の 1903（明治 36）年、葛西萬司と共同経営で辰野葛西事務所を開設します。そして同じ年、念願だった中央停車場設計の依頼があります。当時、ドイツ人土木技師フランツ・バッファーが首都圏の鉄道網計画を立案し、中央停車場の設計図を描いていました。しかし、入母屋破風や唐破風を取り入れた屋根を載せるという奇抜な和風の駅舎案は到底受入れられるものではなく、改めて設計が行なわれることとなり、辰野が設計を任せられることとなります。

辰野が設計した駅舎設計案は、200m以上の長いプラットホーム、南北の大きなドームの改札口、中央の皇室用出入り口という配置は、バッファー案をそのまま引き継ぎましたが、外壁をヨーロッパの代表的な駅舎であるオランダアムステルダム中央駅（1889 年開業）のような赤煉瓦を取り入れた洋風建築案でした。設計が完成する 1910（明治 43）年まで ３ 案の駅舎設計図を描くことになります。これは日露戦争で勝利した国家の威信を記念して、壮大な計画に見直されたからと言われています。

中央停車場は、1908（明治 41）年 ３ 月から建設工事が着工し、1914（大正 3）年 12 月に竣工します。一時、耐震性が考慮され、外壁を赤煉瓦から新材料として普及したコンクリートに改良する案が浮上しましたが、実現せず、赤煉瓦に白い花崗岩を使った「辰野式」といわれる建築が現在も残っています。完成後、中央停車場は「東京駅」と改称され、１２月８日に開業式典が行なわれています。式典では、内閣総理大臣大隈重信が次のように祝辞を述べています。

『太陽が中心にして光線を八方に放つが如し、鉄道もまた四通八達せざるべからず。我が国鉄道の中心はこの停車場にほかならず』

東京駅

東京駅 北口ドームの天井部

東京駅は関東大震災では被害はなかったものの東京大空襲による火災により一部屋根等が焼失します。２００３年に国指定重要文化財に指定され、５年の歳月をかけ２０１２年に創建当時の姿に復原されました。日本の近代化を担う首都東京の玄関口として誕生した東京駅は、数々の歴史を刻みながら、2014 年１２月に開業１００年を迎えました。

辰野は東京駅が完成後も設計を続け、生涯 200 を超える作品を設計します。弟子の後藤慶二は辰野が東京で設計建築した 45 点を一枚の絵に描いた「作品集成絵図」（複製：旧唐津銀行所蔵）を還暦の祝いに贈っています。

作品集成絵図（複製）

また、自らが監修を務め、見込みのある若い建築家に設計をさせた作品も数多く、故郷の唐津に残る唯一の辰野式建築物「旧唐津銀行」（1912 年（明治４５年）３月竣工　市指定重要文化財）もそのひとつです。

旧唐津銀行

１９１７（大正６）年、辰野が設計したいと思っていた国会議事堂建設計画が浮上しますが、自らが設計するのではなく、自分達の教えを受け、育った若手の建築家に広くチャンスを与えるコンペテイション（設計競争）を提案します。辰野金吾は、選考審査員を務めますが、第１次選考後、当時大流行したスペインかぜに罹患し、１９１９（大正８）年３月２５日に６５歳で亡くなります。

日本の建築学の基礎を築いた辰野金吾。そして辰野以外にも故郷の唐津から多くの建築家が名を残していきます。辰野の盟友曽禰達蔵は、三菱に入社後、東京丸の内都市計画、建築計画を担当し、コンドルとともに次々に赤煉瓦の建物を設計し、世に言う「一丁ロンドン」と言われる世界に通用する一大ビジネス街通り作りに貢献します。岡田時太郎は、辰野のもとで多くの作品に関わり、長野県の旧三笠ホテル（国重要文化財）を設計します。迎賓館本館（旧赤坂離宮改修、国宝）や広島世界平和記念聖堂の設計者村野藤吾は、昭和の建築史の礎を築いていきます。

まさに辰野金吾の故郷唐津は、近代日本建築のふるさとと言えるのです。

参考資料
『東京駅の建築家辰野金吾伝』　東秀紀
『「辰野金吾略伝」　鈴木熈
『末盧国』第 127 号
『旧唐津銀行本店保存修理報告書』　唐津市
『佐賀偉人伝 08　辰野金吾』佐賀城本丸記念館